

本宮市の水道

本宮市水道の歩み

旧本宮町

旧本宮町は、伝染病の予防と昭和6年に起こった工場誘致運動がきっかけで水道建設計画が始まり、計画給水人口9,500人、計画給水量1,586m³の緩速ろ過方式による浄水場を高木字猫田地内に建設した。その後、生活様式の変化に伴う水需要の増大や企業誘致による水不足解消のため、4期にわたり拡張を行っており、さらに平成4年度より第5期拡張事業を実施し、平成6年度に小山浄水場を建設した。そして平成18年12月に変更許可を取得し、計画給水人口23,000人、計画給水量23,000m³とした。

旧白沢村

旧白沢村は、阿武隈山系の丘陵地という地形的条件もあって上水道の整備が遅れてきた。しかし、平成元年度に簡易水道事業認可を取得し、計画給水人口4,950人、計画給水量1,571m³の急速ろ過方式による浄水場を糠沢字東禅寺地内に建設した。しかし、順調な給水量の伸展の一方、普及率が50%台と低迷しており、水道未普及地域の解消と安定的な水道水を供給するために平成9年度に上水道事業の認可を得て、計画給水人口9,850人、計画給水量6,100m³とした。

本宮市

平成19年1月1日に、旧本宮町と旧白沢村が合併し「本宮市」が誕生した。それに伴い、水道事業も統合し「本宮市水道事業」としてスタートした。



水源：石筵川・白影沢堰

日本宮町水道の沿革

名称	認可取得年月	工期	事業費(千円)	計画給水人口	1日最大給水量	水源	主な施設
創設	昭和7.3	昭和7年9月 昭和8年9月	134	9,500人	1,586m ³	阿武隈川	本宮浄水場
第1期拡張	昭和36.3	昭和36年4月 昭和40年3月	109,118	12,000人	2,700m ³	五百川	立石山浄水場 1系急速ろ過池
第1期拡張変更	昭和37.12				3,600m ³	石筵川	
第2期拡張	昭和46.1	昭和46年1月 昭和46年3月	21,216	12,000人	3,600m ³	石筵川 地下水	関下取水井
第3期拡張	昭和48.4	昭和48年4月 昭和50年3月	303,938	20,000人	10,800m ³	石筵川 地下水	2系緩速ろ過池 PC配水池
第4期拡張	昭和55.10	昭和55年10月 平成2年3月	2,500,000	21,100人	17,000m ³	石筵川 五百川	3系急速ろ過池 片面山配水池
第4期拡張変更	昭和59.5	昭和59年6月 昭和60年3月	361,000	21,100人	17,000m ³	石筵川 五百川	上関下取水場
第5期拡張	平成4.4	平成4年4月 平成7年3月	2,413,773	21,400人	23,000m ³	石筵川 五百川 地下水	小山浄水場 河原・上河原取水場
第5期拡張変更	平成18.12	平成19年1月 平成33年3月	2,846,397	23,000人	23,000m ³	石筵川 五百川 地下水	立石山浄水場改修 SUS配水池

旧白沢村水道の沿革

名称	認可取得年月	工期	事業費(千円)	計画給水人口	1日最大給水量	水源	主な施設
創設(簡水)	平成元.5	平成元年6月 平成7年3月	3,204,888	4,950人	1,571m ³	地下水	東禅寺浄水場
創設(上水)	平成9.3	平成9年6月 平成23年3月	7,120,553	9,850人	6,100m ³	地下水	平田石浄水場

本宮市水道の沿革

名称	認可取得年月	計画給水人口	1日最大給水量	水源	主な施設
統合	平成19.1.1	32,850人	29,100m ³	石筵川 五百川 地下水	立石山浄水場 小山浄水場 東禅寺浄水場 平田石浄水場

福島へのそのまちもとみや



本宮市のイメージキャラクター
まゆみちゃん

本宮市水道事業の概要

計画給水人口	32,850人
現在給水人口	30,010人
現在給水面積	69.10km ²
現在施設能力	28,470m ³ /日
実績年間給水量	5,218,000m ³
年間有収水量	4,596,000m ³
実績一日最大給水量	18,760m ³
実績一人一日最大給水量	625ℓ (0.625m ³)

※数値は、平成24年度もしくは平成25年3月31日現在